

## 自己点検・評価での課題への対応

部局等 高等教育推進センター

自己点検・評価での課題等 (令和5年12月実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>基準番号：2-2</p> <p>現在、センターには専任教員が1名配置されているが、今後、「福大ビジョン2040」の実現に向けた教育改革を進め、教学IRデータに基づく教学マネジメントや教育内部質保証の継続的・安定的な実施を行っていく上で、複数名の専任教員の確保が必要である。</p>	<p>当センターが本学の教育改革を推進する上で、今後ますます複雑化・高度化する課題に対応するためには人員強化が必要であり、複数の専任教員の確保を機会あるごとに要望していく。</p>	<p>医学部における教育内部質保証の確立を基盤とした医学教育改革を中心的立場で推進された安倍博教授が、令和6年度より、高等教育推進センターの特命教授として就任し、専任教員の2名体制を実現した。</p>
<p>基準番号：3-1</p> <p>各部局と連携した取組みが少ないため、今後、学修成果の可視化等の全学的な教学IRの推進が望まれる。</p>	<p>総合戦略室に置かれた「教学IR推進プロジェクトチーム」との連携のもと、全学的な方針に則り、積極的に各部局の取組みに参画する方策を検討していく。</p>	<p>当センターの教学IR部門と教学IR推進プロジェクトチームの連携により、教育学部における学修成果の可視化が完了した。これにより、全学部で学修成果の可視化が整備され、共通指標における目標も達成した。</p>

<p>基準番号：5-1</p> <p>センター独自のオフィスが未整備のため、引き続き検討し、実現のために全学的な予算要求等を行っていく必要がある。</p>	<p>既存の施設・設備を有効活用しつつ、センターの活動方針等も踏まえ、引き続き、センター独自のオフィス確保の方策等を検討していく。その方策等に沿って、あわせて予算の獲得についても全学へ要望していく。</p>	<p>令和6年度から就任した安倍特命教授の居室を総合研究棟Iに確保し、関係者での打ち合わせ等を行えるスペースを整備した。</p>
<p>基準番号：6-2</p> <p>センターでは、設置目的に沿った活動を行うための一定の予算は確保できているが、センターの業務は年々増大してきており、応分の予算を確保していく必要がある</p>	<p>全学的に措置されている特定事項経費及び学長裁量経費（教育改革推進経費）の有効活用に努めるが、今後、更なる教育改革を推進していく上で必要な予算については、学内競争的経費の獲得及び全学的な予算要求機会の確保に努める。</p>	<p>令和6年度においても特定事項経費及び学長裁量経費（教育改革推進経費）等一定の予算を確保出来ている。引き続き、更なる予算確保に向けて検討していく。</p>
<p>基準番号：8-1</p> <p>今回のセンターの自己点検・評価は新たに整備した内部質保証体制によって実施されるものであり、抽出された「改善を要する点」などについて改善を進めることとしている</p>	<p>今回抽出された課題等について、センター運営委員会を中心に検討し、各部門と連携したPDCAサイクルによる改善を図る。さらに、新たに設置したセンター自己点検・評価委員会をより機能させることで、内部質保証機能の強化に努める。</p>	<p>自己点検・評価委員会にて、昨年度実施した自己点検・評価で抽出した課題等について、改善状況等を確認した。その結果、人員配置等については改善していることを確認できたが、ホームページでの情報発信等については更なる改善を行うことが望ましいとの意見が出され、次年度以降も引き続き改善を進める。</p>
<p>基準番号：8-4</p> <p>前回の自己指摘事項へ対応しつつも、実現していない2点（専任教員の増員、センター独自のオフィス整備）については改善を要する</p>	<p>上記の基準2-2、5-1への対応で示したとおり、引き続き全学への要望に努める。</p>	<p>基準2-2及び5-1への対応として、上述したとおり、専任教員の2名体制及び居室の確保等改善を進めた。</p>